

平成30年度 中国ブロック青少年国際交流を考える集い開催要綱

1 趣旨

内閣府、中国ブロック内の地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、又は関連事業に関心のある青少年等が、事後活動の情報交換を行うとともに、地域、職場等における事後活動の推進、国際交流及び国際親善についての研究協議を行うことにより、青少年の育成、国際交流及び国際親善の促進に寄与することを目的とする。

2 テーマ

「自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに、次の時代の星を輝かせて」

～地域で考える 魅力、優しさ、個性～

日本で最も人口の少ない鳥取県。しかしながら、暮らしやすさ日本一(平成27年経済産業省)の米子市、住みよさランキング「安心度」日本一(平成29年度東洋経済新報社)の倉吉市、日本「住みたい田舎」日本一(平成29年度宝島社)の鳥取市にみられるように、日本国内においても地域性の高さは特筆に値する。この大きな要因の一つには、情報発信力の強さがある。様々な情報の氾濫する現在において、地域ならではの独自性、重要性、こだわりを持った活動展開が、小さなエリアのシンプルな取組であっても国を超えた関心や共感につながることを示唆している。少子化に象徴される地域・時代で活動する私たちにとって、一人一人が自分の考えるリーダーシップを実践に移していくことは、やがてその集積が個人の、また地域の強固な存在性を高めることになる。

本大会を通じて、参加者がそれぞれの経験や知見を、地域での取組や特色ある文化・産業等に照らし合わせ、議論や情報交換してブラッシュアップし、潜在していた自身の魅力や能力を引き出し、昨日とは違う新しい自分を発見してもらうことで、持続可能な交流や国際理解を通じた青少年育成に係る活動、ひいては地方創生に寄与することを狙いとす。

3 主催

内閣府

日本青年国際交流機構

(一財)青少年国際交流推進センター

とっとり青友会

4 後援

鳥取県 米子市 独立行政法人国際協力機構

5 主幹

平成30年度「中国ブロック青少年国際交流を考える集い」実行委員会

6 期日

平成30年10月13日(土)～14日(日)

7 会場

【全体会場・講演会場・分科会会場・懇親会場】

国際ファミリープラザ 会議室

〒683-0823 鳥取県米子市加茂町2丁目180番地

電話(0859)37-5112

【宿泊・2日目会場】

米子ニューアーバンホテル

〒683-0822

鳥取県米子市中町2-8 電話(0859)23-2211

8 参加対象者

内閣府・各ブロック内の地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者

国際交流に関心のある青少年等

9 問い合わせ先

中国ブロック青少年国際交流を考える集い実行委員会事務局(とっとり青友会事務局内)

〒689-0217 鳥取県鳥取市気高町酒津650

電話 090-8992-7026 FAX 020-4624-2598 E-mail nt0881782@ncn-t.net

10 参加費

| 参加形態 | A | 宿泊(全日程参加) | 大人1名(中学生以上) | 11,000円 |
|------|---|-----------|-------------|---------|
| | | | 3歳～小学生以下 | 7,000円 |

| | | | | |
|--|---|----------------|-------------|--------|
| | B | 日帰り(懇親会参加) | 大人1名(中学生以上) | 6,000円 |
| | | | 3歳~小学生以下 | 3,000円 |
| | C | 日帰り(講演会・分科会のみ) | | 1,000円 |

※1 ホテルはシングルが基本ですが、ツインが若干あります。ご相談ください。

※2 参加費の一部は西日本豪雨への寄附金とします。

11 参加申込

参加申込書に氏名、住所、性別、懇親会参加の有無、宿泊希望、を明記の上、9月30日(日)までに、以下申込先へ郵送、FAX、E-Mail でお申し込み下さい。参加者1名につき1枚の申込書にご記入ください。

※ 中国ブロック内の各県の会長は、できるだけ各県IYEO会員の申込をまとめて連絡をしてください。

※ 申込をいただいた方には、個別に確認の連絡をさせていただきます。

【申込先】

郵送 〒689-0217 鳥取県鳥取市気高町酒津650 とっとり青友会事務局内

「平成30年度 中国ブロック青少年国際交流を考える集い」係

FAX 020-4624-2598

E-Mail nt0881782@ncn-t.net

【参加費の支払いについて】

事前振込は必要ありませんので、当日受付で支払いをお願いします。その場で領収書を発行します。

【キャンセルについて】

10月8日(月)までに連絡をくださればキャンセルできます。それ以降は期日に応じて実費をお願いします。

12 日程

【第1日目 10月13日(土)】

12:00~13:00 国際交流事業関係者連絡会議

13:00~13:30 受付(国際ファミリープラザ 3F)

13:30~13:45 開会行事

13:30~13:45 講演会「世界ブランドへの道のり ~地域で創り出すオンリーワンの強さ~」

講師: 山本 敬 氏 (株式会社バルコス 代表取締役社長)

内容: イタリアに拠点を置きながら本社を倉吉に置き、世界を相手に地域発のハンドバックを展開するブランド「BARCOS」。欧米やアジアに活動展開できたのは、地域独特の文化を尊重する意識、ゆとりある暮らし、持続可能な多文化共生社会の構築がそのポイントでした。

今、地方だからこそできる独自の発想や行動は、規模の大小に関わらず世界中が探し求めているスタイルへとつながります。実践する一人ひとりが世界のリーダー(ブランド)になりうるのです。

地方の小さな町ならばこそ、国内外からの交流人口を増加させる可能性は無限大です。一緒に『世界のなかの「地域」の未来』をイメージしましょう。

15:45~17:30 分科会(以下から選択)

① 国内外の人を惹きつける日本遺産大山 ~地域の魅力~

今年、開山1300年祭に沸く大山。広大な裾野に広がる大山寺の地蔵信仰は、今なお地域の生活に根付いています。この自然を尊崇する精神習慣が外国人をも惹きつけ、地域のおもてなしで新たな交流を生み出しています。大山を取り巻く地域の活性化の紹介と今後の可能性を紹介することにより、参加者の住む地域の可能性を考えます。

② シナプソロジーで世代を超えた交流と健康寿命を延ばす ~地域の優しさ~

子どもから高齢者まで、楽しく笑顔で行える脳の活性化プログラム。深刻化する地域の高齢者問題である認知機能低下の予防や、世代間交流の実例等を紹介し、簡単にできる脳トレを体験。家族や友達、職場などで気軽に取り組んでもらうための講座です。

③ 米子ぶらり下町あるき ~地域の個性~

江戸時代から明治時代に、商人の街として栄えた米子。今も変わらず昔の街の佇まいが残るエリアを、地元通のボランティアガイドに導かれ、埋もれた魅力を発見。歴史体験なども取り入れ、年々増える外国人への地域文化の理解度を高める工夫なども伺います。

17:45~18:30 移動・チェックイン(チェックイン後懇親会会場へ移動)

18:30~20:30 懇親会(終了後ホテルへ)

【第2日目 10月14日(日)】

～ 8:30 朝食

9:00～11:00 各県の活動紹介、参加事業報告会、情報交換会 終了後閉会行事

11:30～ 地域理解研修(希望者にはいくつかのプランを紹介します)

例:大山開山1300年歴史自然探訪(交通費等は実費負担でお願いします)

13 実行委員会

| | 氏名 | 参加事業 |
|-------|--------|--------------------------------|
| 実行委員長 | 岡田 健吾 | 2017年 第16回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 事務局長 | 更田 匡史 | 県単事業派遣、IYEO中国ブロック幹事 |
| 実行委員 | 河崎 忠義 | 1994年 第21回 東南アジア青年の船 |
| 実行委員 | 白川 泉 | 1992年 第14回 日中青年親善交流 |
| 実行委員 | 大谷 博美 | 1992年 第6回 日韓青年親善交流 |
| 実行委員 | 廖 汝幸 | 2012年 第34回 日中青年親善交流 |
| 実行委員 | 瀬良 知紀 | 2004年 日韓青年親善交流 |
| 実行委員 | 白川 将夫 | 県単事業派遣 |
| 実行委員 | 白川 夏帆 | 2017年 第39回 日中青年親善交流 |
| 実行委員 | 西堀 圭 | 2012年 第11回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 前田 浩寿 | 2015年 第14回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 柿本 和也 | 2014年 第13回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 山根 健一 | 2013年 第13回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 小笹 蓉子 | 2015年 第14回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 足立 充 | 2012年 第11回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 岡田 修司 | 2016年 第15回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |
| 実行委員 | 梅津 清司郎 | 2016年 第15回 青年社会活動コアリーダー育成プログラム |